

アカミミガメ用日光浴ワナの効果再考 片岡友美（認定NPO法人 生態工房）

ミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans*（以下、アカミミガメまたは本種）は米国中南部とメキシコ北東部に分布する淡水性カメ類である。日本に本格的に輸入され、大量流通し始めたのは1960年以降で、1966年に製菓会社が菓子の景品として配布したことや、夜店や金魚屋で手頃な価格で売られていたこと、美しい緑色と愛らしい姿であったことから、たちまち子どもたちの間で人気者になった。本種の幼体は鮮やかな緑色をしているが、3歳ぐらいから体色が黒っぽくなり、成長すると背甲長が20cmを超えるものもいる。そして寿命は40年と長生きであるため、寿命まで飼いきれずに遺棄された個体や、飼育場所から逸出した個体が1970年ごろから都市部の水辺で見られるようになった。2016年の環境省発表によると、野外に生息するアカミミガメは約790万匹と推定され、関東・東海・近畿地方の平野部や瀬戸内・有明海周辺に多く生息している可能性が推察された。アカミミガメは侵入した地域で水生植物を採食し、植物の生育や分布に悪影響を及ぼしていると考えられる。また、2011年に徳島県鳴門市ではレンコンの新芽が食害されるという農業被害が、滋賀県彦根市では希少種オニバスの食害が報告されている。

このようなアカミミガメの分布拡大と生態系被害を防ぐため、環境省では2022年に外来生物法を改正し、本種を特定外来生物に指定することを決めた（2023年夏ごろ施行、営利を目的としない飼育や譲渡は規制対象外）。

一方、野外に生息するアカミミガメの防除については、自治体や市民活動団体など様々な主体が取組を始めているところである。最近では簡単で効率的なアカミミガメの捕獲手法として「日光浴ワナ」が主流化しつつあり、筆者の所属団体でも複数の対象地で活用している。当団体による捕獲結果を分析すると、作業労力（日数・ワナ数）あたりのアカミミガメの捕獲数は、カゴワナや定置網による捕獲方法と比べて、日光浴ワナの方が捕獲効率が良いという場所が多かった。当団体以外の防除事例においても同様の報告はいくつかあり、日光浴ワナの有効性は一般的に確証を得ているところである。しかし、当団体の防除対象地においては日光浴ワナによる捕獲効率が悪い場所も確認され、必ずしもこのワナが万能でない可能性が推察された。本発表では、当団体のいくつかの防除対象地において、季節や場所による日光浴ワナの捕獲効率を提示し、その違いを報告するとともに、効果的な使用方法について考察する。